

1 月別気象概況（平成 29 年 1 月～12 月）

福岡管区気象台

（1） 1 月の気象概況

上旬：前半は高気圧に覆われ概ね晴れ 後半は低気圧・前線や寒気の影響で曇り
や雨 高温 多雨

8日は空港北町で「日最低気温の高い方から」の1月の極値更新

- ・1～6日にかけては、2日と5日に気圧の谷や寒気の影響を受けて雲が広がり、雨の降った所もあったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。7～9日にかけては、東シナ海から九州南岸を通過して四国沖に抜けた低気圧とその後の寒気の影響で雨が降った。特に8日は県内全域で日降水量 20mm 前後の雨が降り、この時期としてはまとまった雨量となった。8日は暖かい空気の流れ込みで、空港北町では日最低気温 9.4℃を観測し、「日最低気温の高い方から」の1月の極値を更新した。
- ・旬の気温は、県内各地で期間を通じて平年を上回り、旬でも県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は平年を上回る所が多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、6.8～9.5℃（平年差 +1.5～+2.6℃）で平年より高く、旬降水量は、21.5～45.0mm（平年比 116～451%）で、概ね平年より多く、旬日照時間は平年比 88～118%で、平年並の所が多かった。

中旬：期間を通じて冬型気圧配置が続き、寒気や気圧の谷の影響で雨や雪となったが晴れ間も多かった 少雨 多照

14日は添田、20日は空港北町と朝倉で「日最大風向・風速」の1月の極値更新

15日は福岡で「初氷」を観測

- ・期間を通じて冬型気圧配置の日が続き、寒気の影響を受けた。12日と19日は気圧の谷の影響で一時雨となった。一方、晴れ間の広がる日も多かった。15日は強い寒気の影響で冷え込み、福岡で「初氷」（平年より30日遅く、前年より28日遅い）を観測した。また、強い季節風により、14日に添田で北 4.3m/s、20日に空港北町で西北西 19.1m/s、朝倉で西北西 8.2m/s の「日最大風向・風速」を観測し、それぞれ1月の極値を更新した。
- ・旬の気温は、期間の中頃を中心に平年を大きく下回った。その他の期間は

平年を上回ったが旬では概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

- ・県内各地の旬平均気温は、 $2.9\sim 6.3^{\circ}\text{C}$ （平年差 $-1.2\sim +0.2^{\circ}\text{C}$ ）で概ね平年並。旬降水量は、 $0.5\sim 18.5\text{mm}$ （平年比 $3\sim 53\%$ ）で、概ね平年より少なく、旬日照時間は平年比 $120\sim 141\%$ で、県内各地で平年より多かった。

下旬：期間のはじめは冬型気圧配置による寒気の影響で23日に積雪、中頃からは数日の周期で変化多照

23日に「大雪に関する福岡県気象情報」を発表

29日に前原などで日最高気温の1月の極値更新

- ・期間のはじめは冬型気圧配置による寒気の流れ込みにより22～23日は雨や雪となり福岡で積雪2cmを記録した。中頃からは高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、27日と29～30日は前線や低気圧の影響で雨となった。また、29日は前線に向かって暖かい空気が流れ込み「日最高気温」は前原で 20.4°C 、大牟田で 19.3°C を観測し、1月の極値を更新した。
- ・旬の気温は、期間の前半は平年を下回ったが、後半は平年を大きく上回る日が多く、旬では概ね平年を上回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、 $3.8\sim 6.8^{\circ}\text{C}$ （平年差 $0.0\sim +0.8^{\circ}\text{C}$ ）で概ね平年並。旬降水量は $5.0\sim 41.5\text{mm}$ （平年比 $28\sim 165\%$ ）で、概ね平年並、旬日照時間は平年比 $136\sim 160\%$ で、概ね平年よりかなり多かった。

(2) 2月の気象概況

上旬：はじめは概ね晴れ、中ごろからは低気圧や寒気の影響で雨や雪となる日が多かった

7日に「大雪に関する福岡県気象情報 第1号」を発表、10日は久留米などで積雪

- ・期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れた。5日に前線を伴った低気圧が九州北部を通過して県内全域でこの時期としてはまとまった日降水量20mm前後の雨となった。
- ・期間の終わりは、低気圧や冬型の気圧配置による強い寒気の流れ込みで雨や雪となり10日朝は、久留米で3cm、福岡空港で2cm、福岡で0cmの積雪を記録した。7日から10日にかけて「大雪に関する福岡県気象情報」を1号から7号まで発表した。
- ・旬の気温は、期間の中頃まで平年を上回り、期間の終わりは平年を下回った。旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は概ね平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は4.4～7.8℃（平年差+0.2～+1.4℃）で概ね平年より高く、旬降水量は18.5～55.5mm（平年比125～210%）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年比88～104%で概ね平年並だった。

中旬：初めは強い寒気の流れ込みで雪 中頃は高気圧に覆われて晴れ 終わりは前線の通過時に雨 多照

16日九州北部地方で「春一番」

- ・期間の初めは冬型の気圧配置が強まり、寒気の流れ込みで雲が広がり雪や雨となった。11日は強い寒気の流れ込み平地でも積雪があり、福岡で1cm、飯塚で3cmの積雪を観測した。期間の中頃は高気圧に広く覆われ概ね晴れて気温の高い日が続いた。16日は南寄りの風が吹いて気温が上がり、福岡管区气象台は「春一番」が吹いたと発表した。期間の終わりは17日と20日に寒冷前線が通過して雨が降り、寒暖の変化が大きかった。
- ・気温は、期間の初めは県内各地で平年を下回ったが、その後は平年を上回る日が多く、旬の平均では概ね平年を上回った。降水量は平年を下回る所が多く、日照時間は県内各地で平年を上回った。

- ・県内各地の旬平均気温は 5.1～8.6℃（平年差 -0.4～+1.2℃）で平年並の所が多く、旬降水量は 5.0～40.5mm（平年比 17～123%）で平年より少ない所が多く、旬日照時間は平年比 136～157%で県内各地で平年よりかなり多かった。

下旬：冬型の気圧配置となる日もあったが長続きせず、天気は短い周期で変化した

- ・期間の前半は、前線を伴った低気圧の通過と寒気の流れ込みで雲が広がり雨となり雪となった所もあった。期間の終わりは高気圧に覆われ晴れた。
- ・気温は、期間の前半は平年を上回り、後半は平年を下回る日が多かったが、旬の平均では平年を上回る所が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は 5.7～8.5℃（平年差 -1.7～+0.5℃）で平年並、旬降水量は 11.5～34.5mm（平年比 38～104%）で平年より少ない所が多く、旬日照時間は平年比 104～122%で概ね平年並だった。

(3) 3月の気象概況

上旬：気圧の谷や寒気の影響で天気は周期的に変化した 少雨

1日に落雷と降ひょうに関する気象情報を発表

- ・高気圧と気圧の谷や寒気の影響を交互に受け天気は周期的に変化した。2日は上空に強い寒気の流れ込みで大気の状態が不安定となり、雷を伴った雨が降り、福岡でひょうを観測した。8日は冬型の気圧配置による寒気の影響で雪の降った所があり、山地では雪の積もったところがあった。
- ・気温は、期間のはじめと終わりに平年を下回る日があったが、その他の日は平年を上回り、旬では概ね平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、6.2～9.5℃（平年差 -0.6～+0.7℃）で平年並の所が多く、旬降水量は、0.0～24.0mm（平年比 0～36%）で、概ね平年よりかなり少なく、旬日照時間は平年比 108～132%で、概ね平年より多かった。

中旬：天気は周期的に変化 中頃は寒気の影響で曇りや雨 期末は低気圧の通過で雨 少雨

- ・期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れたが、中頃は寒気の影響で雲が広がりやすく雨の降る日もあった。期間の終わりは高気圧に覆われて晴れたが、期末は九州南岸を東進した低気圧の影響で雨となった。
- ・気温は、期間のはじめと終わりは平年を上回る所が多かったが、中頃は下回る所が多く、旬の平均では概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、8.1～10.5℃（平年差 -0.8～+0.2℃）で平年並、旬降水量は、12.0～26.5mm（平年比 30～64%）で、県内各地で平年より少なく、旬日照時間は平年比 111～138%で、概ね平年より多かった。

下旬：天気は曇りや雨の日が多く、気温は期間の中頃を中心に低く経過

25日にサクラの開花

26～28日と31日に落雷と降ひょうに関する気象情報を発表

- ・宗像、前原、久留米などで「月降水量の少ない方から」の3月の極値を更新

期間のはじめは高気圧に覆われて晴れの日もあったが、その後は低気圧・前線や気圧の谷の影響で雲が広がりやすい日が続き、雨の日も多かった。中頃以降は上空に強い寒気が流れこんで大気の状態が不安定となり、26～28日と31日は雷を伴ってひょうが降った所もあった。25日に福岡でソメイヨシノの開花（平年より2日遅く、前年より6日遅い）を観測した。

- ・気温は、中頃を中心に平年を下回る日が多く、期間の終わりに平年を上回る日もあったが、旬の平均では概ね平年を下回った。降水量と日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、8.7～11.3℃（平年差 -1.4～+0.1℃）で平年並か低く、旬降水量は、19.5～52.0mm（平年比 43～96%）で、平年より少ない所が多かった、旬日照時間は平年比 67～97%で、平年より少ない所が多かった。
- ・なお、3月は上旬、中旬を中心に降水量の少ない傾向が続き、3月の月降水量は、宗像 55.5mm、前原 40.0mm、博多 41.5mm、太宰府 44.0mm、英彦山 83.0mm、久留米 47.0mm、耳納山 58.0mm、黒木 52.5mm を観測し、それぞれ「月降水量の少ない方から」の3月の極値を更新した。

(4) 4月の気象概況

上旬：期間のはじめは高気圧に覆われて晴れ 中頃から終わりは曇りや雨 寡照
10日に「高温に関する異常天候早期警戒情報」発表
1日にイチョウの発芽、5日にサクラの満開

- ・期間のはじめは高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、その後は低気圧・前線や気圧の谷の影響で雨の日が多かった。1日にイチョウの発芽(平年より2日早く、前年より4日遅い)、5日に福岡でソメイヨシノの満開(平年より4日遅く、前年より6日遅い)を観測した。
- ・気温は、期間のはじめと終わりに平年を下回ったが、期間の中頃は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を大きく下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、12.7～14.8℃(平年差 +0.9～+1.6)で各地とも平年より高く、旬降水量は、41.0～118.5mm(平年比 84～184%)で、概ね平年より多く、旬日照時間は平年比 60～72%で、概ね平年よりかなり少なかった。

中旬：天気は周期変化 17日は寒冷前線の通過に伴い大雨 気温は期間の中頃を中心に高く経過 多雨
15日に「落雷と突風に関する福岡県気象情報」発表
16日から17日にかけて「大雨と暴風に関する福岡県気象情報」、「大雨に関する福岡県気象情報」発表
17日に空港北町で「日降水量」、八幡、空港北町、前原ほかで「日最大1時間降水量」、久留米で「日最大風向・風速」の4月の極値更新
18日にノダフジ開花

- ・低気圧と高気圧が交互に通過し天気は周期的に変化した。17日は低気圧が発達しながら対馬海峡を東進し、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を通過し雷を伴って大雨が降った。この風雨に伴い、17日に空港北町で115.5mmの「日降水量」を観測、また、八幡で21.5mm、空港北町で38.0mm、前原で31.0mm、博多で27.0mm、柳川で26.0mmの「日最大1時間降水量」を観測、さらに久留米で南11.0m/sの「日最大風向・風速」を観測し、それぞれ4月の極値を更新した。

- ・気温は、期間のはじめと期末に平年を下回ったが、期間の中頃は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は、17日の大雨のため県内各地で平年を大きく上回り、日照時間は各地とも平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、15.2～17.0℃（平年差 +1.4～+2.4℃）で各地とも平年より高く、旬降水量は、60.5～161.5mm（平年比 149～362%）で、概ね平年よりかなり多く、旬日照時間は平年比 102～115%で、平年並の所が多かった。

下旬：期間の中頃に雨の日があったがその他の期間は概ね晴れ 気温は平年より高く経過 少雨 多照

30日に空港北町で「日最高気温」の4月の極値更新

- ・期間の中頃の 25～26日に前線を伴う低気圧が九州南岸を東進して雨が降ったが、その他の期間は勢力の強い大陸の高気圧に覆われて晴れの日が多かった。気温は23日と27日頃に平年を下回る所があったが、その他の期間は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。30日は晴れて強い日射の影響も加わって気温が上がり、空港北町で「日最高気温」27.3℃を観測し、4月の極値を更新した。
- ・県内各地の旬平均気温は、15.7～17.9℃（平年差 +0.2～+1.2℃）で平年より高い所が多く、旬降水量は、9.5～48.0mm（平年比 19～122%）で、概ね平年より少なく、かなり少ない所もあった。旬日照時間は平年比 134～152%で、概ね平年よりかなり多かった。

(5) 5月の気象概況

上旬：期間の前半は概ね晴れたが3日は午後に雷雨の所も 期間の後半は曇りや雨

6日から8日にかけて福岡で黄砂

- ・期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、3日は強い日射と上空の寒気の影響で、午後になって雷雨となった所があった。期間の後半は前線や気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、期間の終わりは雨となった。また、国内の広い範囲で黄砂が観測され、福岡では6日から8日にかけて黄砂を観測した。気温は期間の中頃までは平年を上回る日が続いたが、期間の終わりは一転して平年を下回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地とも平年を下回り、日照時間は平年を下回った所が多かった。県内各地の旬平均気温は、18.3～20.0℃（平年差 +0.7～+2.0℃）で、各地とも平年より高く、旬降水量は、14.0～50.0mm（平年比 27～81%）で、平年より少ない所が多かった。旬日照時間は平年比 85～100%で、平年並の所が多かった。

中旬：期間のはじめは大雨の日も 中頃以降は概ね晴れの日が続いた 多照

15日にヤマツツジの開花

- ・期間の前半は12日に活動の活発な前線を伴う低気圧が九州地方を通過して雨となり、所によっては雷を伴い大雨となった。この大雨に対し、「大雨と落雷及び突風に関する福岡県気象情報」が第1号から第5号まで発表された。その後、期間の中頃から終わりにかけては、移動性高気圧に覆われて概ね晴れの日が多く、19日と20日は強い日射の影響で気温が上がり、日最高気温が30℃以上の真夏日を観測した所があった。気温は期間の中頃に平年を下回る日もあったが、期間の前半と後半は平年を上回り、旬の平均は県内各地で平年を概ね上回った。降水量は県内各地とも概ね平年並、日照時間は平年を大きく上回った所が多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、18.1～20.5℃（平年差 +-0.0～+1.7℃）で、概ね平年より高く、旬降水量は、28.0～74.5mm（平年比 45～97%）で、平年並の所が多かった。
- ・旬日照時間は平年比 142～155%で、平年並よりかなり多い所が多かった。

下旬:24日は雨が降ったがその他の期間は概ね晴れの日が続いた 高温 少雨 多照

八幡、空港北町、行橋、博多で「月平均気温の高い方から」の5月の極値を更新

空港北町、添田で「日最高気温の高い方から」の5月の極値を更新、28日にホタルの初見

- ・期間の中頃の24日は、気圧の谷と、九州の南海上を前線を伴って東進した低気圧の影響で雨となったが、その他の期間は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。とくに期間の終わりは優勢な高気圧に広く覆われて快晴の天気となった。29日、30日は強い日射の影響も加わって気温が上がり、多くの地点で日最高気温が30℃以上の真夏日を観測した。気温は期間の前半と後半は平年を上回り期間の中頃は平年を下回る日もあったが、旬の平均では県内各地で平年を概ねかなり上回ったところが多かった。
- ・降水量は県内各地とも平年を下回り、日照時間は平年を概ねかなり上回った所が多かった。29日は空港北町で29.4℃、30日は添田で32.4℃の「日最高気温」の極値を更新。また、「月平均気温」の極値を行橋21.0℃、空港北町20.8℃、八幡21.8℃、博多で22.1℃と更新した。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.4～22.5℃（平年差 +1.0～+2.1℃）で、各地とも概ね平年よりかなり高く、旬降水量は、0.0～9.5mm（平年比2～23%）で、概ね平年よりかなり少ない所が多かった。旬日照時間は平年比82.5～103.1%（平年比125～145%）で、概ね平年よりかなり多かった。

(6) 6月の気象概況

上旬：6日と7日は低気圧と前線の影響で雨 その他の期間は高気圧に覆われて概ね晴れ

6日頃に九州北部地方は梅雨入り（平年比1日遅い・前年比2日遅い）

- ・1日は気圧の谷の影響で曇りとなったが、その後5日までは高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。6日は東シナ海の低気圧が接近し7日には朝鮮半島付近を東進、また、九州南岸の前線も影響して雨となり、6日に九州北部地方は平年より1日遅く、前年より2日遅く「梅雨入りしたと見られます」と発表した。その後は再び高気圧に覆われて概ね晴れたが、10日は大陸東岸の気圧の谷が接近して次第に雲が広がった。気温は期間を通じて平年を上回る日が多かったが、7日から8日を中心に一時的に平年を下回り、旬の平均では平年を上回った所が多かった。降水量は県内各地とも平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.4～22.5℃（平年差 -0.7～+0.7℃）で、平年並の所が多く、旬降水量は、2.5～28.0mm（平年比6～80%）で、平年より少ない所が多かった。旬日照時間は、平年比108～131%で、平年より多い所が多かった。

中旬：11日と20日は低気圧や梅雨前線の影響で雨 期間を通じて高気圧に覆われて概ね晴れ 少雨 多照

12日に「少雨に関する福岡県気象情報 第1号」が発表された。

- ・期間を通じて高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いたが、期間のはじめと期末に低気圧や梅雨前線の影響で雨が降った。
- ・気温は、期間の前半は平年を下回る日が多く、後半は平年並か平年を上回ったが、旬の平均では平年を下回った所が多かった。降水量は県内各地とも平年を下回り、日照時間は県内各地で平年より概ねかなり多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、21.0～23.7℃（平年差 -1.2～+0.5℃）で、平年並か低い所が多く、旬降水量は、8.0～39.5mm（平年比11～26%）で、平年より少なかった。
- ・旬日照時間は、平年比145～185%で、平年より概ねかなり多かった。

下旬：高気圧に覆われ晴れる日もあったがその他の日は梅雨前線の影響で曇りや雨 寡照
宗像、八幡、行橋、太宰府、朝倉、久留米で「月間日照時間の多い方から」の6月の極値を更新

- ・22日から23日にかけては高気圧に覆われて晴れるときもあったが、その他の日は九州付近に停滞した梅雨前線の影響で曇りや雨の日が続き、24日は雷を伴い大雨となった。気温は期間を通じて平年並だったが、23日と30日は一時的に平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年並か下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、22.8～25.0℃（平年差 -0.6～+1.0℃）で、平年並の所が多く、旬降水量は、69.5～228.0mm（平年比 40～123%）で、平年並か少ない所が多かった。旬日照時間は、平年比 52～81%で、平年並か少ない所が多かった。

(7) 7月の気象概況

上旬：4日は台風第3号で荒れた天気 5～6日は活発な梅雨前線の影響で記録的大雨 高温

5～6日は梅雨前線の活動が非常に活発で、筑後地方を中心に「これまでに経験したことの無いような」記録的大雨

朝倉の5日の日降水量は516.0mm、日最大1時間降水量129.5mm いずれも年間の極値を更新

重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合に発表する「大雨特別警報」を九州で初めて発表

「平成29年7月九州北部豪雨」と命名

- ・1日から3日にかけては太平洋高気圧に覆われ晴れ間もあったが、高気圧周辺の暖かく湿った空気の流れ込みで雲が広がりやすかった。4日は東シナ海を北上してきた台風第3号が、午前8時頃長崎市付近に上陸後九州を横断したため、台風の中心に近い所では猛烈な雨と暴風で大荒れの天気となった。5日から6日にかけては、朝鮮半島から梅雨前線が南下して九州北部地方に停滞し、前線の活動が非常に活発となり、福岡県筑後地方と大分県西部を中心に、1時間に100mmを超えるような猛烈な雨が局地的に長時間にわたって降り続け、朝倉では5日の日降水量：516.0mm、日最大1時間降水量：129.5mmを観測した。いずれも年間の極値を更新し、「これまでに経験したことの無いような」記録的大雨となった。また同5日、英彦山で248.0mm、6日は前原で244.0mmの日降水量を観測し、7月の極値を更新した。このため、福岡管区気象台は、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合に発表する「大雨特別警報」を九州で初めて発表し、最大級の警戒を呼びかけたが、朝倉市、東峰村では記録的大雨により人的被害を伴う大規模な洪水、土砂災害が発生した。気象庁は発生した被害の重大性を受けて、この大雨を「平成29年7月九州北部豪雨」と命名した。その後7日から10日にかけても梅雨前線が九州付近に停滞し続け曇りや雨の日が続いた。
- ・気温は期間の初めと終わりは平年を上回ったが、大雨が降った6日前後は下回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は概ね平年を上回り、朝倉では654.5mmに達し、平年の426%にのぼった。日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は、26.1～28.4℃（平年差+1.2～+3.1℃）で、平年よりかなり高い所が多く、旬降水量は、107.5

～654.5mm（平年比 66～426%）で、平年より多い所が多く、大雨災害が発生した朝倉などではかなり多かった。旬日照時間は、平年比 55～98%で、平年並の所が多かった。

中旬：期間の初めと終わりは梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨 中頃と期末は高気圧に覆われ概ね晴れ 高温

13日から18日は連日「高温注意情報」発表、20日頃に九州北部地方は梅雨明け（平年比1日遅い・前年比2日遅い）

- ・期間の初めは対馬海峡に停滞していた梅雨前線が九州地方を南下して雨となった。その後、期間の中頃を中心に太平洋高気圧に覆われ、上空の気圧の谷の影響で薄雲が広がったが概ね晴れて、強い日射の影響で気温が上がり、最高気温が35℃を超える「猛暑日」となる所があった。このため、13日から18日は連日「高温注意情報」を発表した。期間の終わりは対馬海峡の梅雨前線や、九州付近を南下した気圧の谷の影響で曇りとなったが、期末の20日は高気圧に覆われて概ね晴れとなり、九州北部地方は平年より1日遅く、前年より2日遅く「梅雨明けしたと見られる」と発表した。気温は期間を通じて概ね平年を上回り、旬の平均でも県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は、27.2～29.6℃（平年差 +1.1～+2.5℃）で、平年よりかなり高い所が多く、旬降水量は、8.5～86.5mm（平年比 8～69%）で、平年より少ない所が多く、旬日照時間は、平年比 119～160%で、平年より多い所が多かった。

下旬：上空の気圧の谷や湿った気流の影響で曇りや薄雲が広がる日もあったが、期間中は概ね高気圧に覆われて晴れ 高温 少雨

期間中、21日から31日まで連日「高温注意情報」発表、27日にヒグラシ初鳴、30日にサルスベリ開花

- ・期間の初めから中頃までは高気圧に覆われたが、上空の気圧の谷の影響で薄雲が広がる日が多かった。期間の中頃から後半にかけては、上空の気圧の谷の影響や湿った気流により雲が広がり、一時雨の降った日もあったが、期間中は概ね高気圧に覆われ晴れたため、強い日射の影響で気温が上がり、各所で最高気温が35℃を超える「猛暑日」となる所があった。このため、

期間中は21日から31日まで、連日「高温注意情報」を発表した。気温は期間を通じて概ね平年を上回り、旬の平均でも県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年並だった。県内各地の旬平均気温は、28.5～30.3℃（平年差 +1.9～+2.2℃）で、平年よりかなり高い所が多く、旬降水量は、0.0～60.5mm（平年比 0～60%）で、平年並か平年より少ない所が多く、旬日照時間は、平年比 98～120%で、平年並の所が多かった。

(8) 8月の気象概況

上旬：期間の初めは太平洋高気圧に覆われて晴れ 中頃と終わりは台風第5号と湿った気流の影響で曇りか雨 高温

台風第5号が6日から7日にかけて奄美地方から種子島・屋久島地方をゆっくり北上して四国沖を通り紀伊半島へ上陸

7月に引き続いて6日と9日を除き連日「高温注意情報」発表

5日は前原で「日最高気温の高い方から」と朝倉「日最低気温の高い方から」、6日は久留米などで「日最低気温の高い方から」の8月の極値を更新

9日は福岡市博多区で突風被害発生

- ・1日から5日までは太平洋高気圧に覆われて概ね晴れの天気が続いた。強い日射の影響も加わって気温が上がり、県内の多くの所で最高気温が35℃を超える「猛暑日」となった。このため、6日と9日を除いて連日「高温注意情報」を発表し、7月21日から8月5日にかけては16日連続の発表となった。5日は前原で38.9℃の日最高気温を、朝倉で29.0℃の日最低気温を観測し、それぞれ「日最高気温の高い方から」と「日最低気温の高い方から」の8月の極値を更新した。また、6日には久留米：28.7℃、太宰府：28.4℃、博多：28.6℃の日最低気温を観測、それぞれ「日最低気温の高い方から」の8月の極値を更新した。6日から7日にかけては台風第5号が奄美地方から種子島・屋久島地方をゆっくり北上したために福岡県では雲が広がりやすく風が強かった。9日午前8時10分頃、福岡市博多区付近で突風によると思われる被害が発生し、福岡管区気象台は現地調査班を派遣して、「この突風をもたらした現象は、ガストフロントの可能性が高い」と発表した。
- ・気温は期間を通じて概ね平年を上回り、旬の平均でも県内各地で平年を上回った。旬降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は平年を上回った所と下回った所とがあった。県内各地の旬平均気温は、28.0～30.7℃（平年差 +1.3～+2.8℃）で、平年よりかなり高い所が多かった。旬降水量は、7.0～55.0mm（平年比 13～77%）で、平年並の所が多く、旬日照時間は、平年比 74～120%で、平年並の所が多かった。

中旬：期間の初めと終わりは高気圧に覆われ概ね晴れ 中頃は前線や湿った気流の影響で曇りや雨

14日は空港北町で「日最大1時間降水量」の8月の極値更新

15日に「落雷と突風に関する福岡県気象情報」発表

- ・期間の初めは高気圧に覆われて概ね晴れた。期間の中頃は14日から16日にかけて、対馬海峡に停滞した活動の活発な前線の影響で雨が降った。とくに14日は所により日降水量が80mmを超えるまとまった雨量となり、空港北町では60.5mmの「日最大1時間降水量」を観測し8月の極値を更新した。期間の終わりは高気圧に覆われ概ね晴れて、19日と20日は強い日射も加わって気温が上がり、最高気温が35℃を超える「猛暑日」となる所があった。このため両日とも、「高温注意情報」を発表した。
- ・気温は、まとまった雨が降った14日を除いて期間を通じて概ね平年を上回り、旬の平均でも概ね平年を上回った。降水量は概ね平年を上回り、日照時間も概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は、26.2～28.5℃（平年差 -0.4～+0.5℃）で、県内各地で平年並。旬降水量は、51.0～303.0mm（平年比79～216%）で、概ね平年より多く、旬日照時間は、平年比98～128%で、平年より多い所が多かった。

下旬：期間の初めと終わりは高気圧に覆われ概ね晴れ 中頃は前線の影響で大雨
高温

25日は空港北町で「日最低気温の高い方から」の8月の極値更新

- ・期間の初めは太平洋高気圧に覆われて概ね晴れて気温が上がり、最高気温が35℃を超える「猛暑日」となる所があった。このため22日から25日は連日「高温注意情報」を発表した。空港北町では25日、28.9℃の日最低気温を観測し、「日最低気温の高い方から」の8月の極値を更新した。期間の中頃は25日から26日にかけて、活動の活発な前線が対馬海峡から九州地方を南下して雨となった。各地でまとまった雨量となり、多い所では総降水量が100ミリを超す大雨となった。期間の終わりは大陸から移動してきた高気圧に覆われ概ね晴れた。27日と29日は強い日射の影響で気温が上がり、最高気温が35℃を超える「猛暑日」となる所があり、両日とも「高温注意情報」を発表した。
- ・気温は、まとまった雨が降った26日前後を除いて、期間を通じて概ね平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は概ね平年を

下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は、26.7～29.2℃（平年差 +0.8～+1.9℃）で、平年よりかなり高い所が多かった。旬降水量は、14.5～116.5mm（平年比 24～119%）で、平年並の所が多かった。旬日照時間は、平年比 127～148%で、平年より多い所が多かった。

(9) 9月の気象概況

上旬：期間のはじめと後半は高気圧に覆われて概ね晴れ 中頃は前線の影響で大雨

7日は耳納山で「日降水量、日最大1時間降水量」の9月の極値更新

- ・期間のはじめと後半は高気圧に覆われて概ね晴れたが、中頃は活動の活発な前線が対馬海峡から九州地方を南下して雨となった。耳納山では7日、161.5mmの「日降水量」、71.5mmの「日最大1時間降水量」を観測し、それぞれ9月の極値を更新した。
- ・気温は、期間の前半を中心に平年を下回る日が多く、旬の平均では県内各地で平年を下回った。降水量は平年を下回る所が多かったが、所によっては平年を大きく上回った。日照時間は平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、23.3～25.4℃（平年差 -1.5～-0.4℃）で、平年より低い所が多かった。旬降水量は、36.0～187.0mm（平年比 49～233%）で、平年並の所が多かったが、所によってはかなり多かった。旬日照時間は、平年比 87～100%で、平年並の所が多かった。

中旬：台風・低気圧・前線の影響で曇りや雨 17日は台風第18号が鹿児島県南九州市付近に上陸し強風と大雨 寡照

12日に「やまはぎ」開花

- ・高気圧に覆われて晴れる日もあったが、台風・低気圧・前線の影響で曇りや雨の日が多かった。17日は台風第18号が鹿児島県南九州市に上陸後宮崎県を通過した影響で、強風を伴い大雨となった。
- ・気温は、期間の中頃を中心に平年を下回る日が多く、旬の平均でも概ね平年を下回った。降水量は概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、22.2～24.4℃（平年差 -1.5～+0.1℃）で、概ね平年並であった。旬降水量は、32.0～160.0mm（平年比 95～266%）で、平年より多い所が多く、かなり多い所もあった。旬日照時間は、平年比 32～55%で、県内各地とも平年よりかなり少なかった。

下旬：天気は周期変化 22日、27日、28日は低気圧と前線の影響で雨

- ・期間中、天気は周期的に変化し、22日は九州の南海上や南岸に停滞した前線を低気圧が通過して雨となり、また、27日から28日にかけては、前線を伴う低気圧が対馬海峡を通過して雨となった。その他の期間は、上空の気圧の谷の影響で雲が広がる日もあったが、高気圧に覆われて概ね晴れた。
- ・気温は、期間の中頃を中心に平年を上回った所が多く、旬の平均でも平年を上回った所が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を上回った所が多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.5～23.0℃（平年差 -0.6～+0.5℃）で、平年並の所が多かった。旬降水量は、13.5～47.0mm（平年比 29～78%）で、概ね平年並であった。
- ・旬日照時間は、平年比 80～113%で、平年並の所が多かった。

(10) 10月の気象概況

上旬：天気は周期変化 2日、6日は低気圧と前線の影響で大雨 高温 多雨
6日は宗像で「日降水量」、空港北町で「日降水量、日最大1時間降水量」
の10月の極値更新

- ・期間中、天気は周期的に変化し、2日と6日は低気圧と前線の影響で大雨となり、6日は宗像で、87.0 mmの「日降水量」、同じく6日に空港北町で99.0 mmの「日降水量」と26.5 mmの「日最大1時間降水量」の10月の極値を更新した。
- ・その他の期間は、上空の気圧の谷の影響で雲が広がる日もあったが、高気圧に覆われ概ね晴れた。
- ・気温と降水量は、平年をかなり上回り、日照時間は期間の前半は平年を下回り、後半は上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.0～22.3℃（平年差 +0.5～+1.8℃）で、平年よりかなり高い所が多かった。旬降水量は、59.5～163.5mm（平年比168～484%）で、平年よりかなり多かった。旬日照時間は、平年比83～103%で、平年並か少なかった。

中旬：期間を通じて前線が九州付近に停滞して曇りや雨 多雨 寡照

- ・11日は高気圧に覆われて概ね晴れたが、12日以降は期間を通じて前線が九州付近から九州南海上に停滞して曇りや雨の日が続いた。特に15日から16日にかけては前線の活動が活発で広い範囲でまとまった雨量となった。
- ・気温は、期間の中頃に平年を下回る日もあったがその他は期間のはじめを中心に平年を上回った所が多く、旬の平均でも概ね平年を上回った。降水量は県内各地で平年を大きく上回り、日照時間は県内各地で平年を大きく下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、17.9～19.5℃（平年差 -0.2～+1.0℃）で、平年より高い所が多かった。旬降水量は、63.0～155.5mm（平年比251～625%）で、概ね平年よりかなり多かった。旬日照時間は、平年比15～27%で、各地とも平年よりかなり少なかった。

下旬：21日、22日は前線と台風第21号の影響で曇りや雨 28日、29日は台風第22号の影響により曇りや雨 その他の期間は高気圧に覆われ概ね晴れ 多雨

31日は空港北町で「日最低気温の低い方から」の10月の極値を更新 宗像、空港北町、行橋、博多、太宰府、朝倉、久留米、耳納山、黒木、柳川で「月降水量の多い方から」の10月の極値を更新

「九州北部地方は10月の降水量が最も多くなりました」と報道発表 黒木で「月間日照時間の少ない方から」の10月の極値を更新

- ・21日、22日は九州南岸に停滞した前線や、沖縄の東海上から四国の南海上を北上し静岡県に上陸した台風第21号の影響で曇りや雨となり、28日、29日は九州の南海上から四国の南を北上した台風第22号の影響で曇りや雨となった。その他の期間は、上空の気圧の谷の影響で雲の広がる日もあったが、高気圧に覆われて概ね晴れた。
- ・気温は、期間の中頃と終わりに平年を下回る日もあったがその他の期間は平年を上回った所が多く、旬の平均では概ね平年を上回った。降水量は前線や台風第21号、台風第22号の影響により、平年を大きく上回り、日照時間は平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、15.0～17.8℃（平年差 -0.2～+1.3℃）で、平年より高い所が多かった。旬降水量は、39.0～89.0mm（平年比 214～471%）で、概ね平年よりかなり多かった。旬日照時間は、平年比 86～93%で、平年より少ない所が多かった。
- ・10月は低気圧・前線の活動が活発であったこと、および台風第21号、22号が影響したことが要因となって各地で記録的に降水量が多くなり、宗像(246.0mm)、空港北町(272.0mm)、行橋(364.0mm)、博多(263.0mm)、太宰府(271.5mm)、朝倉(295.5mm)、久留米(275.5mm)、耳納山(233.5mm)、黒木(304.5mm)、柳川(244.0mm)で「月降水量の多い方から」の10月の極値を更新した。これを受けて福岡管区气象台では11月1日に「九州北部地方は10月の降水量が最も多くなりました」との内容で報道発表を実施した。また、黒木の月間日照時間は120.0時間で、「月間日照時間の少ない方から」の10月の極値を更新した。

(11) 11月の気象概況

上旬：期間中は高気圧に覆われ概ね晴れ 8日は気圧の谷の影響で一時雨

- ・期間中は高気圧に覆われ概ね晴れの天気が続いた。8日は気圧の谷の影響で雨が降ったが、その後は再び高気圧に覆われて概ね晴れた。
- ・気温は、期間の中頃に平年を下回る日もあったがその他の期間は平年を上回る所が多かった。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、13.8～16.6℃（平年差 -0.5～+1.1℃）で、平年並だった。旬降水量は、4.5～23.5mm（平年比 15～73%）で、概ね平年並だった。旬日照時間は、平年比 112～137%で、各地とも平年より多かった。

中旬：前線や寒気の影響で曇りや雨の日もあったが高気圧に覆われて概ね晴れ

- ・期間を通じて高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、14日と18日は前線が対馬海峡を通過して雲が広がり弱い雨が降った。また、期間の終わりは大陸から寒気が流れ込んで雲が広がりやすく、一時的に雨が降った。
- ・気温は、期間の始めは平年を上回ったが、期間の中頃からは平年を下回り、期間の終わりは平年を大きく下回った所が多く、旬の平均では各地とも平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は概ね平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、9.2～12.6℃（平年差 -2.1～-1.0℃）で、県内各地で平年より低かった。旬降水量は、2.0～5.5mm（平年比 10～30%）で、各地とも平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 97～122%で、平年並の所が多かった。

下旬：高気圧に覆われて晴れの日もあったが前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった

21日は大牟田と博多で「日最低気温の低い方から」の11月の極値更新

- ・22日と29日に低気圧・前線や気圧の谷が九州付近を通過して雨となった。その他の期間は高気圧に覆われたが、期間の前半は強い寒気が流れ込んで

雲が広がりやすく雨が降った所もあった。21日は寒気と放射冷却の影響で冷え込みが強く、最低気温は大牟田で -0.8°C 、博多で 1.7°C を観測し、それぞれ「日最低気温の低い方から」の11月の極値を更新した。期間の後半は寒気が弱まり27日から28日にかけては高気圧に覆われて晴れた。

- ・気温は、各地とも期間の前半は平年を下回ったが、期間の後半は平年を上回り、旬の平均では平年を下回った所が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は各地とも平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、 $8.4\sim 11.8^{\circ}\text{C}$ （平年差 $-1.0\sim +0.4^{\circ}\text{C}$ ）で、平年並の所が多かった。旬降水量は、 $9.5\sim 21.0\text{mm}$ （平年比 $35\sim 74\%$ ）で、各地とも平年並となった。
- ・旬日照時間は、平年比 $65\sim 93\%$ で、平年より少ない所が多かった。

(12) 12月の気象概況

上旬：期間の初めは高気圧に覆われて晴れの日もあったが中頃からは寒気の流れ込みで雲が広がり雨や雪の日も
福岡では2日に初霜と初氷5日に初雪6日に脊振山の初冠雪を観測

- ・期間の初めは高気圧に覆われて概ね晴れた。朝は放射冷却の影響も加わり冷え込んで、2日は福岡で初霜（平年より10日早く前年より5日早い）と初氷（平年より14日早く前年より13日早い）を観測した。期間の中頃からは大陸の強い寒気が流れ込んで雲が広がりやすい天気となって気温も下がり、5日は福岡で初雪（平年および前年より10日早い）、6日は脊振山の初冠雪（平年より2日早く前年より10日早い）を観測した。
- ・気温は、各地とも期間を通して平年を下回り、旬の平均は平年を下回った。降水量と日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、4.8～8.1℃（平年差 -2.6～-1.4℃）で、平年より低かった。旬降水量は、5.0～28.5mm（平年比 24～110%）で、平年より概ね少ない所が多かった。旬日照時間は、平年比 70～104%で、平年より概ね少ない所が多かった。

中旬：冬型の気圧配置の日が多く、気圧の谷や寒気の流れ込みにより雪や雨 低温 少雨
15日に「長期間の低温に関する九州北部地方気象情報」発表

- ・高気圧に覆われて一時的に晴れる日もあったが、期間を通じて冬型の気圧配置となる日が多く、大陸の強い寒気が流れ込んで雲が広がりやすく、雪や雨の降る日が多かった。
- ・気温は、期間中各地とも平年を下回り、旬の平均でも平年をかなり下回った。降水量は県内各地で概ね平年をかなり下回り、日照時間は平年を下回った所が多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、3.0～6.4℃（平年差 -2.8～-1.8℃）で、平年よりかなり低かった。旬降水量は、0.0～3.5mm（平年比 0～13%）で、平年よりかなり少ない所が多かった。旬日照時間は、平年比 62～94%で、平年より少ない所が多かった。

下旬：高気圧に覆われて晴れの日もあったが前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった

博多と空港北町で「月降水量の少ない方から」、八幡で「月間日照時間の少ない方から」の12月の極値を更新

- ・期間中は高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧、前線や寒気の流れ込みにより、雲が広がりやすく雨が降った日もあった。月間降水量は博多と空港北町で23mmと、それぞれ「月降水量の少ない方から」の12月の極値を更新した。また、八幡で日照時間が79.8時間と「月間日照時間の少ない方から」の12月の極値を更新した。
- ・気温は、各地とも期間のはじめと中頃は平年を下回ったが、期間の前半と後半は平年を上回った所が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を下回った所が多かった。県内各地の旬平均気温は、3.9～7.9℃(平年差-1.3～+0.1℃)で、平年並か低いが多かった。旬降水量は、5.0～20.0mm(平年比34～99%)で、各地とも平年並となった。旬日照時間は、平年比68～104%で、平年並の所が多かった。
- ・なお、宗像で年間日照時間2031.1時間と「年間日照時間の多い方から」、博多で年降水量1226.0mmと「年降水量の少ない方から」の年の極値を更新した。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月降水量	月日照時間
平成 29 年 1 月	高い	多い	かなり多い
平成 29 年 2 月	高い	少ない	かなり多い
平成 29 年 3 月	平年並	かなり少ない	多い
平成 29 年 4 月	かなり高い	かなり多い	多い
平成 29 年 5 月	かなり高い	少ない	かなり多い
平成 29 年 6 月	平年並	少ない	多い
平成 29 年 7 月	かなり高い	平年並	多い
平成 29 年 8 月	高い	少ない	かなり多い
平成 29 年 9 月	平年並	平年並	少ない
平成 29 年 10 月	高い	かなり多い	かなり少ない
平成 29 年 11 月	平年並	かなり少ない	平年並
平成 29 年 12 月	かなり低い	少ない	少ない

階級区分について

気象要素の分布を値の大（高）、小（低）によって、「高い（多い）」、「平年並」、「低い（少ない）」の3階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」を補足的に用いています。3階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」（1：1：1）の等確率で、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」の出現率は10%です。